



神奈川県議会議員 石川たくみ活動報告

かけはし

再生可能エネルギーの導入促進

神奈川県議会決算特別委員会

イギリス・グラスゴーで開催されたC O P 26 では、気温上昇について産業革命前から「1.5 度に抑えるための努力を追求する」とする成果文書を採用し、閉幕しました。国は10月22日、「第6次エネルギー基本計画」を閣議決定し、再生可能エネルギーについては、2050年における主力電源として最優先の原則の下で最大限の導入に取り組むことを明記しました。環境と経済を両立させる、新しい資本主義が求められています。神奈川県では、先進的に再生可能エネルギーの導入促進に取り組んできましたが、その状況について質疑をしました。



すべては三浦のために

【石川巧質問】神奈川県では、再生可能エネルギーの導入に対して補助事業を行っており、令和2年度の決算額は合計で1億9,126万余円、導入実績としては全て太陽光発電でした。再生可能エネルギーは太陽光以外にも、風力、水力、地熱などがありますが、本県における導入ポテンシャルについて伺います。

【エネルギー課長】再生可能エネルギーのうち陸上風力発電については、平成24年度に京浜臨海部及び三浦半島を対象に「風力発電施設立地可能性調査」を実施したが、風が弱いなど、適地はないという結果だった。洋上風力発電については、国の研究機関であるN E D Oが公開している「洋上風況マップ」によると、風が弱く水深が深いため地理的条件にも恵まれていない。また、水力発電については、新たに大規模なものを建設できる適地はなく、環境への負荷も大きいことから、新規の設置は困難な状況。地熱発電についても、導入が進んでいる大分県などと比較すると、発電するには地熱の温度が低く、条件に恵まれていない。これらに対して、太陽光発電は、設置場所の制約が少なく、本県においては、導入ポテンシャルが最も高いことから、導入を促進している。

【石川質問】本県で導入ポテンシャルの高い太陽光発電について、まず事業所等への導入促進はどのような取り組みを行っているのか？

【エネルギー課長】太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーの普及に当たっては、固定価格買取制度いわゆるFITが大きな役割を果たしてきたが、買取に伴う再生可能エネルギー発電促進賦課金という国民負担の増加や電力系統の負荷への対応が課題となっている。この課題に対して、電気を作った場所で使う、自家消費であれば、買取に伴う国民負担や電力系統の問題が生じないため、自家消費型での太陽光発電の導入を進める必要があると判断した。そこで、10kW以上の自家消費型太陽光発電を導入する事業者に対し、平成29年度から経費の一部を補助し、導入を促進している。

【石川質問】次に、住宅への導入促進はどのような取組を行っているのか。また、その実績は？

【エネルギー課長】国の資料によると、住宅に太陽光発電の設置を希望しない理由として最も多いのが「初期費用が高いため」となっている。そこで、初期費用の負担を軽減するため、購入希望者を募り、一括して発注することでスケールメリットを活かし、市場価格よりも安い費用で購入できる「共同購入事業」を令和元年度に開始した。しかし、市場価格よりも安い費用であっても、どうしても初期費用の負担が難しく、設置をあきらめている方もいると思われることから、令和2年度からは初



られキャラで、北条義時とは最後まで張り合うことになる武将ということで、そのキャラクターに人気が出るのではないか、と期待しています。

神奈川県は、大河ドラマを契機として様々なゆかりの地を周遊し、これまであまり知られていなかった地域の魅力も知っていただくため、広域的なプロモーションを展開していく予定です。

具体的には、12月中に大河ドラマの特設ウェブページを開設し、1月以降、周遊マップの配布やポスターの掲示を行います。特設ウェブページや周遊マップでの情報発信にあたっては、ドラマゆかりの地のみならず、その周辺の観光情報も合わせて提供することで

周辺地域を含めた周遊を促進します。また、県内の観光ボランティアガイド団体と連携して、ドラマゆかりの地まつわる逸話や見どころ等についてコラム記事を作成し、ウェブページに掲載するなど地域の歴史や文化についても発信していく。さらに、来年二月に「鎌倉幕府ゆかりの地」編、三月に「鎌倉時代相模武士たちの足跡編」と題して、専門家の解説を交えながら、鎌倉幕府ゆかりの地等を巡るオンラインツアーを実施します。県内にあるドラマゆかりの地をはじめ観光コンテンツの魅力をしっかりPRし、周遊観光を促すことで、県内経済の活性化に繋げていきたい、と黒岩祐治知事も意気込みを語っていました。

三崎黒潮キンメがかながわブランドに登録！



県の地産地消の取り組み

三浦市の名産「三崎黒潮キンメ」が、「かながわブランド」に新規登録されました。「三崎黒潮キンメ」は、みうら漁業協同組合に所属する漁業者が、四国沖から紀伊半島沖にかけての黒潮に沿って形成された漁場で漁獲した大型で脂の乗ったキンメダイです。魚が凍らない0℃前後で保冷して鮮度を保ちながら、衛生管理が行き届いた三崎沿岸卸売市場に水揚げされます。

かながわブランドは、地産地消の推進のため、生産・出荷基準を守って一定の品質を満たした県内の農林

水産物や加工品を登録するもので、11月4日現在73品目127品登録されています。



まちは、皆さんの声によってつられます。県政に皆さんの声をお届けします。

FAX : 046 (876) 8708

三浦への思いやご意見を書いて上記FAX番号まで送信下さい！



昭和48年(1973年)生
1996年 早稲田大学教育学部 卒業
1996年 凸版印刷株式会社 入社
2001年 有限会社丸石製作所 入社
2011年 (公社)三浦青年会議所 第50代理事長
2013年 三浦市議会議員(一期)
2015年 神奈川県議会議員 初当選
2019年 二期目当選
所属：共生社会推進特別委員会 委員長
総務政策常任委員会

氏名：

住所：

電話：

